

令和6年(2024年)度 産学官・地域連携活動報告書

連携先名称：福島県鮫川村

協定締結日：平成22年6月30日

活動状況：継続中

連携先窓口：福島県鮫川村 農林商工課 課長 我妻正紀氏、平田太良氏

活動資金：個人予算

担当教員(所属)：入江彰昭(地域創成科学科)

活動体制(単位)：大学

関連教員(所属)：上地由朗先生(農学部)、竹内将俊先生・栗田和弥先生(地域環境科学部)、穂坂賢先生(応用生物科学部)入江満美先生(国際食料情報学部)

活動目的：

「福島県鮫川村と東京農業大学との連携協力に関する協定書(20100610締結)」第2条(協力事項)に基づいた連携事業報告

1. 山村環境の整備、再生、発展のための連携事業

1-1 鮫川村里山まるごと体験学校の実施

2024年4月27~28日 里山散策、炭焼き見学、ムジナハウス庭管理などの里山管理活動などを通じて、地元農家や役場の方々とともに里山景観保全を学ぶ。

2024年5月25~26日 大豆のタネまき、館山公園管理作業、ムジナハウス庭管理などの里山管理活動などを通じて、地元農家や役場の方々とともに里山景観保全を学ぶ

2024年7月20~21日 大豆の畑の草管理、茅葺き用の茅束ね、農村公園管理作業、ムジナハウス庭管理、ホタル観賞、星空観察などの里山管理活動などを通じて、地元農家や役場の方々とともに里山景観保全を学ぶ。

2024年10月13~14日 大豆畑草取り、ムジナハウスの庭手入れ、茅束づくりなどの里山管理活動などを通じて、地元農家や役場の方々とともに里山景観保全を学ぶ。

2024年11月23~24日 茅葺き用の茅刈り、農村公園のイルミネーションづくりなどの里山管理活動などを通じて、地元農家や役場の方々とともに里山景観保全を学ぶ。

2025年1月18～19日 真坂地区での農村公園イルミネーションの取り外し、里山の伝統文化とり小屋などの里山管理活動などを通じて、地元農家や役場の方々とともに里山景観保全を学ぶ。

2025年2月22～23日 茅葺き用の茅束ね、ムジナハウス庭管理、村民との交流、草刈りなどの里山管理活動などを通じて、地元農家や役場の方々とともに里山景観保全を学ぶ。

1-2 村営温泉施設「さぎり荘」周辺環境整備事業実施 2025年3月22日
モミジ200本植樹

2. 地域再生・活性化の人材育成教育のための連携事業

2-1 鮫川村里山まるごと体験学校の実施
前述同様。

3. 伝統文化維持・発展のための連携事業

3-1 鮫川村里山まるごと体験学校の実施
前述同様。

4. 遊休荒廃農地再生のための連携事業

4-1 鮫川村里山まるごと体験学校の実施
前述同様。

5. 資源循環型農林業推進のための連携事業

5-1 修士論文「中山間地域における地域住民による 里山林の薪炭利用の実態—福島県東白川郡鮫川村を事例として—」(荻津晴也、指導教員入江彰昭)の実施

5-2 農水省みどりの食料システム戦略における鮫川村オーガニックビレッジ宣言に向けた鮫川村有機農業推進講演会の開催 2025年2月28日 入江満美先生講演、おおよそ50名参加。

活動内容・成果：

1. 山村環境の整備、再生、発展のための連携事業

1-1 鮫川村里山まるごと体験学校の実施

2024年4月27～28日 参加学生教員26名 指導 地元農家小林輝男氏、受入れ役場農林商工課 平田太良氏

2024年5月25～26日 参加学生教員12名 指導 地元農家圓井正男氏、受入れ役場農林商工課 平田太良氏

2024年7月20～21日 参加学生教員23名 指導 地元農家圓井正男氏、受入れ役場農林商工課 平田太良氏

2024年10月13～14日 参加学生教員8名 指導 地元農家圓井正男氏、受入れ役場農林商工課 平田太良氏

2024年11月23～24日 参加学生教員25名 指導 地元農家蛭田吉郎氏、受入れ役場農林商工課 平田太良氏

2025年1月18～19日 参加学生教員7名 指導 真坂集落の方々、受入れ役場農林商工課 平田太良氏

2025年2月22～23日 参加学生教員18名 指導 地元農家圓井正男氏、受入れ役場農林商工課 平田太良氏

1-2 村営温泉施設「さざり荘」周辺環境整備事業実施 2025年3月22日
モミジ200本植樹 参加村民 おおよそ70名、植栽デザイン設計指導入江彰昭
広報さめがわ 2025年4月号 23頁

https://www.vill.samegawa.fukushima.jp/data/doc/1743586758_doc_1_0.pdf

2. 地域再生・活性化の人材育成教育のための連携事業

2-1 鮫川村里山まるごと体験学校の実施 前述同様。

3. 伝統文化維持・発展のための連携事業

3-1 鮫川村里山まるごと体験学校の実施 前述同様。

4. 遊休荒廃農地再生のための連携事業

4-1 鮫川村里山まるごと体験学校の実施 前述同様。

5. 資源循環型農林業推進のための連携事業

5-1 修士論文「中山間地域における地域住民による 里山林の薪炭利用の実態—福島県東白川郡鮫川村を事例として—」 荻津晴也
荻津晴也、入江彰昭(2025)「中山間地域における薪炭生産業者による木炭生産と里山林の利用実態：福島県東白川郡鮫川村を事例として」 東北森林科学会誌 30(1) 2025.1 p.9-16

<https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R000000004-I034021420>

5-2 農水省みどりの食料システム戦略における鮫川村オーガニックビレッジ宣言に向けた鮫川村有機農業推進講演会の開催 2025年2月28日 入江満美先生講演、おおよそ50名参加。

広報さめがわ 2025年4月号 19頁

https://www.vill.samegawa.fukushima.jp/data/doc/1743586758_doc_1_0.pdf

<成果>

1-1 鮫川村里山まると体験学校の実施

2025年1月18~19日 報告



20250222～23 報告 今回は、茅葺き用の茅束ね、村民との交流を兼ねた手まめ館周辺樹木剪定、モミジ植栽計画現地確認などの里山活動などを通じて、村民や役場の方々とともに里山景観について学びました。



【学んだこと・感想】

参加学生①

土日はありがとうございました。茅束ねや剪定作業をしたのは初めてでしたが、先輩や大人の方に教わりながらやっていく内にコツを掴むことが出来ました。母親が福島市出身で福島市には何度も行ったことがあり、冬は積もるぐらい雪が降るため、鮫川村も同じぐらい降るのかと思っていたらパラパラ降る程度で、地域による気候の違いも学ぶことが出来ました。景色も食事も実際に足を運ばなければ感じるものの出来なかったものばかりで、改めて現地に行く大切さを知りました。

参加学生②

第 130 回鮫川村里山まるごと体験学校に参加させていただきありがとうございました。活動を通して今まで見たことがない景色、触れたことのない機械、体験を行えることができました。私は、地域創 成科学科に入学してから講義以外

の実習活動にも積極的に参加していこうと考えていました。これまでは川場村で学生リーダーとして活動を行っていました。今回行った鮫川村では実際に地形の課題に取り組み、景観をよくするために活動を行っている地域の皆様のお手伝いをさせていただきました。1年間で学んできた知識が、たくさん現場で使われていることに気づきました。また、地域の方々がたくさん話しかけてくださり、暖かさを感じたと共に、東京農業大学という名を背負いながら活動しなければならないとも感じました。これからあと3年間を通し、鮫川村の活動含めてたくさんの実習活動に参加して、実際の地域課題の対策を研究し、現地の方の声をたくさん聞いて行きたいと考えています。それを自分の中で吸収をして、将来社会に出る際に自分がどのような人になりたいのかを考えて行きたいです。本当に有意義な2日間でした。ありがとうございました。

参加学生③

今回は最後の里山丸ごとの活動でした。初めて参加した時はたかねさんやみなさんとの少数の活動でしたが、最後はたくさんの学生との活動でした。茅の取り込みでは野外に放置した茅がしっかり乾くのか疑問に思っていたのですが、予想以上に乾いていたことに驚きました。茅の積み上げはうまく積んでいると思っていたものの、最後の最後に傾いてしまったので悔いが残ります。ツツジの剪定ではただ樹形を整えるだけではなく、花芽などもしっかり確認しなくてはいけないと改めて学ぶことができました。また、いつも放置していた樹皮の苔を落とす必要があったことも知りませんでした。今回は地域の方とはあまり交流する機会がありませんでしたが、最後に福島大の学生さんたちと交流することができ、自分と近い年齢の学生さんたちが様々なことに取り組んでいる姿を見て、刺激を受けることができました。あっという間の6年間でしたが、最後まで学ぶことがたくさんあると感じる活動でした。この鮫川での活動がなければ、自分の学部、修士生活は全く違っていたと思います。様々な気づきや学び、体験をさせていただきありがとうございました。

参加学生④

今回の鮫川村での活動は、充実した学びと楽しさに満ちた2日間でした。1日目は、以前茅刈を行った場所で茅を移動する作業を行いました。大人数で協力し、バケツリレーのように運んだことで効率的に進められ、仲間と一緒に作業する

楽しさを実感することができました。また、他の人が茅を運ぶ姿がピクミンのよう
うで微笑ましかったです。空き時間には、男の子たちが野球やキャッチボール
を創意工夫し楽しむ様子が印象的に残っています。2日目は、ツツジの剪定と裏
山の視察を行いました。お昼には焼きおにぎりやバターの組み合わせの美味し
さに衝撃を受け感動し、新たな味覚を発見しました。

この2日間で多くを学び、鮫川村の魅力をさらに知ることができました。ま
た訪れたいと思います。ありがとうございました。

参加学生⑤

今回は、僕自身学生として最後の鮫川村実習となりましたが、昨年度から今
年度の実習を鑑みると、昨年度は毎回多くの作業量をこなしていたんだなと感
じました。一方で今年度の実習は、鮫川村という村について知る機会が多かっ
たように思います。「こんな良い眺望の場所がある」ですとか、「村民の方々と
より近距離での交流」、「別の大学や地域から来られた方との交流」といった昨
年度とは異なる形式で、非常に興味深く感じられました。昨年度より、多くの活動
にてお世話になりました、本当にありがとうございました。社会人になっ
ても、また活動に参加できたらと思っております。そして、卒業までの残りわず
かな期間よろしく願いいたします。

参加学生⑥

今回の鮫川村の活動では、前回自分たちが来た時に刈った茅を運び込むこと
が出来、自分の活動が積み重なっていく感覚を覚えました。たまに来て活動に
参加するお客さんではなく、責任を持って最後まで出来る人に少しずつなっ
ていきたいと思えます。また、「むすび」の裏の丘を登ってモミジが植えられる
か現場を確認したことは、授業で机の上で行った学びが、生きた経験になっ
たのを感じました。高いところからの眺望も良く、遊歩道としても素敵な場所だ
など、鮫川の新たな魅力も感じる事が出来ました。前回は料理に自信がな
かったので参加に手を挙げられなかった豚汁作りも、家で少しお手伝いをする
機会を増やして、自信を持って参加することが出来ました。どんなことに対し
ても、前向きに学んでスキルを得ていきたいと、改めて感じました。

参加学生⑦

今回の鮫川村では、主に茅の運びだし、ツツジの剪定作業を行いました。茅の運びだしでは、束ねた茅をよく観察することが出来たと思います。凍ってしまっている茅はあったものの、ほとんどが雪にやられておらず、良質な茅場で育っていると改めて思いました。また、茅をきれいに整列させている束は乾ききっているものが多く、ススキをそろえて束ねる重要性も学ぶことが出来ました。さらに、茅葺屋根は人が住んでいればいるほど長持ちすることや葺替えの際に取り扱った茅の良い部分は、屋根の中にあんこ材として使用できることも今回初めて学びました。剪定作業で、春に花が咲くものの強剪定はしてはいけないということは、ムジナハウスでの庭の管理の際に教えてくださいましたが、どの枝を残しどこまでをおとすというのは人に教えられるほど理解できていなかったように感じます。今回、農業高校に進学していたまなと君に直接教えていただいたのは、とても勉強になりました。また、まなと君は競技場で使用管理されている「シバ」に興味があり、それらの管理方法の難しさや設計において工夫されている点について教えて下さり、大変興味深くお話で来てよかったですと思います。鮫川村に参加している学生はとても探求心が強く、それぞれ様々な分野の知識を蓄えていると思いますので、今後もたくさんの学生と実習を通して、お話出来たらと思います。

参加学生⑧

私は2年生の11月に初めて鮫川村を訪れてから、早いもので学生最後の活動となってしまいました。約2年半の期間の中で、大豆の収穫や茅の運搬、ムジナハウスの管理作業など里山だからこそ体験できるような活動を通して、初めてのことや新たな気づきなど沢山の学びをさせていただきました。また、村の方や学生など毎回沢山の方と交流し話す機会をいただけたことで、私自身大きく成長させていただきました。

大学に入学し里山について学ぶ講義もありましたが、鮫川村のような理想の里山に出会うことができ、本当によかったと振り返っています。ここでの経験と学びを活かし、4月からは社会人として新たなスタートをきれたらと考えています。約2年半の間本当にありがとうございました。社会人となっても鮫川村にはまた訪れさせていただきたいです。少しでも成長した姿を皆様にお見せできるよう頑張りたいと思います。

1-2 村営温泉施設「さぎり荘」周辺環境整備事業実施 2025年3月22日



幅広い年代が参加したボランティア

さぎり荘周辺を観光スポットへ

もみじ200本の植樹ボランティア

3月22日(土)に村民保養施設さぎり荘の裏山で、湯座建設株式会社から寄贈されたもみじ200本の植樹が行われました。村内外からおおよそ70人がボランティアで参加し、東京農業大学入江教授の指導の下、春を感じる陽気の中で植樹作業に汗を流しました。宗田村長は「さぎり荘の温泉と紅葉のコラボで観光スポットにしたい。村民一人一人の思いが村づくりにつながる」と参加者に感謝を述べました。

5-2 鮫川村有機農業推進講演会開催 2025年2月28日

オーガニックビレッジ宣言への道 vol.1

鮫川村有機農業推進講演会を開催

農林商工課農林畜産係 ☎49-3113



村は、先人の努力と農業の営みによって守られてきた美しい里山景観を後世につなぐため、「まめで達者な村づくり」と「バイオマスヴィレッジ構想」をさらに発展・加速させる取り組みとして、令和7年度に「オーガニックビレッジ宣言」を行う予定です。

オーガニックビレッジとは?

有機農業の生産から消費までを一貫して行い、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻き込んだ地域ぐるみの取り組みのことです。

国ではみどりの食料システム戦略に基づき、耕地面積に占める有機農業の割合を2050年までに25%、100万 t を目指すことを示しており、有機農業を推進しています。

なぜオーガニックビレッジを目指すの?

村は、「まめで達者な村づくり」を掲げ、安全・安心・おいしい農作物のために土づくりから取り組んできました。20年に渡り作り上げた村独自のエコシステムは、環境大臣賞を受賞するなど村外からも大きな注目を集めています。地域内の資源を活かし、循環型農業を進めてきた取り組みは、国がSDGsを推進する以前より村に根付いています。

▶東京農業大学 入江満美准教授が基調講演



熱心に講演に耳を傾ける住民

令和7年2月28日(金) 村公民館で有機農業推進講演会を開催し、村民およそ50人が参加しました。

講演会に先立ち、農林商工課農林畜産係石井係長が、村で予定している「オーガニックビレッジ宣言」及び今後の学校給食への取り組みなどを説明しました。

続いて東京農業大学国際食料情報学部国際農業開発学科・入江満美准教授が有機農業をテーマに基調講演を行いました。基調講演では、土づくりをテーマに土壌の微生物の働きや有機農業の効果などが紹介され、改めて村が進める有機農業の可能性について学びました。

interview

バイオマスヴィレッジ構想の立ち上げから村に関わっていますが、村でオーガニックビレッジ宣言を行う話を聞いた時は、ついにこの段階まで来たのかと思いました。オーガニックビレッジを進めることは、鮫川村の将来を担う次の世代に、今よりもよい環境を残してあげることになります。

地域でサイクルを回すという本来ある姿を学ぶことは、ここで育つ子どもたちへの教育にもとてもよいことだと思います。



入江満美 准教授

課題・改善点：活動時の交通費。宿泊費。